

いせはらししみんぞくちょうさほうこくしょ 3 いせはらの
のみんぞくおおやまちく

#38 伊勢原市史民俗調査報告書 3 伊勢原
の民俗—大山地区—

作者：伊勢原市史編集委員会（いせはらししへんしゅうい
いかい）

刊行：平成2年（1990）



 解題

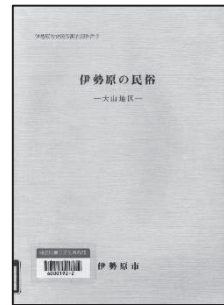
■ 内容

本書は、伊勢原市の大山地区を対象として行われた伊勢原市史民俗調査の報告書である。

昭和61年(1986)、伊勢原市史編集委員会に民俗文科会が作られた。「伊勢原市史編さん事業全体計画」によれば民俗分科会の作業予定は、7年間を伊勢原市史の「民俗編」執筆のための基礎資料収集期間としている。毎年各地区の民俗調査を行い、その結果を報告書としてまとめることとなった。昭和61年度に「成瀬地区」、昭和62年度に「伊勢原・岡崎地区」の報告書が刊行され、本書「大山地区」は3冊目にあたる。大山地区とは、明治22年(1889)に大山町と子易村とが合併してできた、大住郡大山町の範囲を指し、現在の伊勢原市大山・子易に相当する。

調査は、平成元年(1989)3月と7月に行われており、地元で古くから住んでいる方々への聞き取りを主としているが、文書記録や銘文、小祠、民具類も調査対象となっている。

本書では、最初に大山地区の概要について述べており、次いで「社会生活」、「耕地・山林と生産」、「交通と交易」、「衣食住」、「信仰生活」、「年中行事」、「人生儀礼」、「口承文芸」、「方言」などについて記している。



[K38.64/5/3]

第4章 民俗

また、大山の民俗儀礼の中心である大祭について、「第6章 信仰生活」と「第7章 年中行事」において詳細に解説している。

4月5日～20日の春季大祭は「春山」と呼ばれる。以前は4月15日～24日に行われており、明治時代から始まったと考えられている。

7月27日～8月17日の夏季大祭は「夏山」と呼ばれ、阿夫利神社下社から山頂へ向かう登拝門が開かれる。江戸時代の開山期は旧暦の6月27日～7月17日に当たり、それ以外の期間に不動堂より大山頂上へ登ることは禁じられていた。

8月27日～29日の秋季大祭は「大山祭り」と呼ばれ、阿夫利神社下社と麓の社務局の間を神輿が往復する。28日には倭舞、巫子舞が奉納される。

■ 作者

調査は12名の民俗分科会メンバーと2名の臨時調査員からなる。話者は71名、協力者は5名となっている。本書の原稿整理と編集作業は田中宣一と市史編さん室職員が行っている。

田中宣一は昭和14年(1939)、福井市に生まれ、昭和42年(1967)に國學院大学大学院文学研究科で博士課程を取得した。平成21年(2009)度まで成城大学文芸学部文化史学科に所属しており、執筆当時は助教授であった。現在は、成城大学名誉教授である。主要著書に『年中行事の研究』、『祀りを乞う神々』、『供養のこころと願掛けのかたち』、『名づけの民俗学』などがある。

参考文献

『伊勢原市史民俗調査報告書 1-7』伊勢原市史編集委員会編 伊勢原市 1988-1996 [K38.64/5/1-7]

『伊勢原市史 別編 民俗』伊勢原市史編集委員会編 伊勢原市 1997 [K21.64/7/3-1]

『名づけの民俗学：地名・人名はどう命名されてきたか』田中宣一著 吉川弘文館 2014 [380.1/93]